

第5回 (2015/06/29)

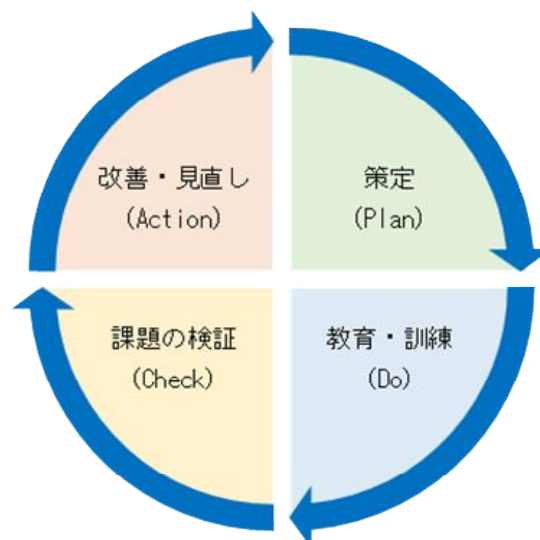
# あなたを守る、企業を守るために必要な事

株式会社実務薬学総合研究所 譜久村岳彦

第5回では、策定した BCP を定着させるための訓練の方法や年間計画の立案について説明いたします。

BCP を定着させるために

BCP を定着させるためには、業務改善の手法である PDCA サイクルを回す必要があります。このサイクルを繰り返すことで自薬局の BCP の完成度は上がっていきます。BCP における PDCA サイクルは、下記のようになります。



## 【策定 (Plan)】

第2回、第3回で説明した「初動計画」「災害対策本部計画」「応急救護所支援計画」「事業継続計画」の策定と、訓練計画の立案も入ります。

## 【教育・訓練 (Do)】

策定した BCP について、周知と教育、訓練を実施します。教育・訓練後には必ずアンケートを取り、課題、問題点、要望等を洗い出します。

## 【課題の検証 (Check)】

教育・訓練で発見された課題、問題点、要望等の一覧表を作成し、対応方針まで検討します。

## 【改善・見直し (Action)】

作成した一覧と対応方針をもとに対策の検討を実施し、BCP に反映 (変更・修正・追加) します。

PDCA サイクルを繰り返すことで、組織内に BCP が根付き、より良い内容にしていくことが可能です。

## 訓練と演習の重要性

訓練は PDCA サイクルの Do に該当します。訓練後にアンケートを取って一覧に集約する Check も大切です。訓練の中には演習も含まれ、練習後に実際にできるかを確認するために実施します。まずはそれぞれの違いを確認していきます。

### 【訓練】

慣れるまで繰り返し練習をすることを訓練と言います。例えば、揺れを感じたら身の安全確保をする」と説明していますが、実際に体が覚えるまで練習をするということになります。

### 【演習】

被害想定的前提を設け、行動計画が実際に機能するかの確認を行うことを演習と言います。例えば、今回の地震を想定した BCP では、地震発災後、策定した行動計画に沿って確認することになります。

次に、4つの計画における実施すべき訓練と演習のポイントを確認していきます。訓練で繰り返し体に覚え込ませた後に、様々な演習を実施して段階を踏んでいくことが重要です。

### 【初動計画】

初動計画は、訓練が主になります。震度 6 強の地震発生と想定し、身の安全確保、負傷者対応、安否確認、被害状況確認等のそれぞれで訓練を実施します。1 回目は項目毎に実施し、2 回目以降は身の安全確保後に安否確認をするなどの組み合わせで実施すると良いでしょう。

### 【災害対策本部計画】

災害対策本部の設営、役割の実行、そしてその記録を演習で実施します。演習では、震度 6 強の地震、決定権者（社長）の不在、停電等インフラの被害状況の前提を設定します。

災害対策本部の設営が完了し、本部長代行・本部メンバーが参集した時点で、本部長からの指示で情報収集の報告、重要関係先との連携を開始します。記録は全てを時系列で記録するようにします。

### 【応急救護所支援計画】

こちらも演習として、地震発生を想定し、派遣薬剤師が持参する物品を持って救護所までのルートを手図上でなぞってみます。あらかじめ検討していたルート上に通行禁止の場所を設定し、別ルートの検討をするような演習でも良いでしょう。

### 【事業継続計画】

受付、調剤、監査、投薬・服薬指導、会計、薬歴作成の流れで演習を実施します。想定患者数分の処方箋を準備します。演習開始の合図で、調剤に必要な物品を準備し、患者さんが来局して処方箋を受け付けてその後の業務が流れるように実施します。この時、照明を消して災害用に準備したランタンで調剤するのも良いと思います。

訓練・演習の実施後は参加者全員にアンケートを取ります。アンケートを取ることで課題や問題点、

要望が把握できます。アンケート項目は、設問に対して自由記載ではなく、「はい、いいえ、わからない」の回答欄を作成し、「その理由」も記載できるようにします。できるだけ「特になし」の回答は入れないようにします。

また、訓練・演習の運営についても設問に入れるようして、次回の訓練・演習に活かすようにしてください。アンケートの記入は可能な限り訓練・演習終了後に記入してもらいます。アンケート回収後は、集計結果を作成します。集計結果をグラフ化すれば、課題・問題点が浮かび上がり、今後の具体的な対応について検討できるでしょう。

#### 年間計画立案の必要性

災害時に機能する BCP を策定するには、年間計画を立てて PDCA サイクルを意識した取り組みを実施する必要があります。すでに年間行事が記載された計画書等があればそこに追記します。

計画に記載する主な項目は PDCA サイクルの項目になり、策定した年は「教育・訓練 (Do) →課題の検証 (Check) →改善・見直し (Action) →策定 (Plan)」を実施します。

教育は全社員に対して実施するようして、特に新入社員の入社時、中途採用や人事異動があったときには周知を徹底します。安否確認に使用する携帯電話番号、メールアドレスに関しては各人の変更が多いため、訓練については3ヶ月ごとの実施が適当かもしれません。

災害対策本部計画、応急救護所支援計画、事業継続計画については、年1回、防災の日に合わせて実施すると良いでしょう。その後、課題や問題点を検証して、改善・見直しについては、期間を決めて年間行事へ追記します。

また、通常実施している朝礼や定期的に参加している会議等の冒頭10分程でBCPの進捗状況を発表するのも良いと思います。そうすることでBCPは薬局に必要な計画であり、重要なものだという認識が定着していくでしょう。

経営者の関わり方としては、年間計画立案時も朝礼や定期的な会議等においても、経営者自らが率先してBCP策定に携わっていくことが重要なポイントになります。もし、経営者ができなければ専任の担当者を決めて実施するように指示してください。BCPの完成度を上げることで、企業の存続や職員・患者さんの安全をこれまで以上に担保できるため、経営者の積極的な働きかけがとても重要です。

## BCP レポートまとめ

全 5 回に渡り、BCP 策定のポイントを確認してきましたが、いかがでしたか。

第 1 回でも触れたように、経営者の考え方、薬局の立地、近隣医療機関の診療科等で BCP は変わってきます。すぐに完璧な BCP を策定することは困難ですので、まずはガイドラインをベースとした BCP を作っていきましょう。その後、訓練を実施して肉付けし、課題や問題点を洗い出して、対策を講じていけば、自薬局に適した BCP に近づいてくると思います。

医療業界の BCP は、自薬局の取り組みはもちろん重要ですが、近隣医療機関、薬剤師会、医薬品卸会社、行政等との「連携」が非常に重要だと思っています。薬局 BCP を策定することで、まず「個」が強くなり、そして医療業界、地域で取り組む事で「全体」が強くなり、多くの負傷者を助けることにつながり、地域貢献が可能になるでしょう。

以上、薬局における BCP 策定のポイントとして、少しでもご参考にしていただければ幸いです。最後までお付き合いいただき、誠にありがとうございました。

— 以上 —

### 著者プロフィール

譜久村 岳彦 (ふくむら たけひこ)

1964 年生・沖縄県出身・趣味は映画鑑賞

私は、病院勤務の経験を活かし、医療・介護業界を中心に BCP 策定のお手伝いをしています。届出用の BCP ではなく、有事の際、機能する魂の入った BCP 策定支援を信念に、大学病院、赤十字病院、クリニック、薬局、介護施設等多数の実績があります。



今回の連載に際し、具体的な策定ポイントを皆様にお伝えして、医療・介護業界に BCP の重要性・必要性を理解してもらい、浸透させることができれば幸いです。そして、有事に患者さんのために活動する薬局が少しでも増えるように、様々なご支援をしていきたいと思っています。

#### (留意事項)

- ・本資料は情報提供のみを目的としたものであり、いかなる取引の勧誘或いは取引を確認するものではありません。
- ・本資料に記載された内容は、作成時点(2015年6月)において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づき作成しておりますが、当社はその正確性・確実性を保証するものではありません。また、ここに記載されている内容は、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- ・本資料のご利用並びに取り組みの最終決定に際しましては、ご自身のご判断でなされますよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などにご相談の上でお取り扱い下さいませようお願い致します。
- ・当社の承諾なしに、本資料の全部または一部を引用または複製することを禁じます。